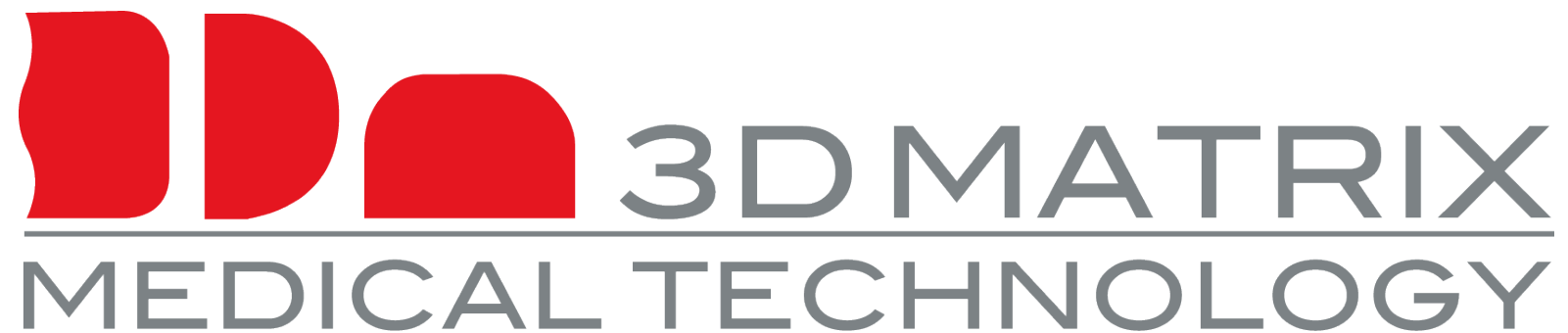




2025年4月期第1四半期決算説明会

株式会社スリー・ディー・マトリックス(証券コード:7777)
2024年9月

エグゼクティブサマリー

- ◆ 売上は14.8億円、前年同期比で80%増、予算達成率115%
特に米国消化器内視鏡領域が全体の成長をけん引
- ◆ 売上の増加に伴って、営業利益は▲3.1億円、前年同期比で3.3億円(51%)の改善、
対予算で1.1億円の改善

前年同期比、予算対比 (単位:百万円)

	前第1四半期実績	当第1四半期予算	当第1四半期実績
売上	827	1,286	1,485
粗利	553	883	1,055
営業損失	▲645	▲424	▲316

- ◆ 北海道大学ワクチン研究開発拠点との国産ワクチン開発を目的とした共同研究を開始

2025年4月期第1四半期の業績： 目次

1. 財務状況

2. 開発状況

3. ご参考：会社紹介

2025年4月期第1四半期の業績： 目次

1. 財務状況

2. 開発状況

3. ご参考：会社紹介

損益計算書の概要

事業収益は前期比約80%増、粗利が約1.9倍に拡大し、営業利益を3億円以上改善。
為替差損により経常利益は一時的に赤字。

(単位:百万円)	2025/4月期 Q1	2024/4月期 Q1	増減
事業収益	1,485	827	+658
売上原価	430	273	+157
粗利益	1,055	554	+501
粗利率	71%	66%	+5%
研究開発費	140	138	+2
販管費	1,230	1,060	+170
営業利益	△316	△645	+329
経常利益	△786	108	△894
当期純利益	△787	8	△795

(ご参考)経常利益に与える為替レートの影響(為替差益・差損)

為替レートの変動によって子会社貸付金の評価額が変動するため、前期末と比べて円安に振れると為替差益、円高に振れると為替差損が計上される(事業上のコスト増や現金の流出などは発生しない)。

(ご参考)子会社貸付金と為替が営業外損益に与える影響

	子会社 貸付金	(ご参考)主要為替レート(USドル円)の推移			営業外損益への影響
		期首	第1四半期末	円安/円高	
前第1四半期	102億円	134.41円	140.97円	円安	482百万円の評価 益
当第1四半期	109億円	156.92円	152.46円	円高	242百万円の評価 損

あくまでも財務会計上の見かけ上の損益であり、
事業運営上のコスト増やキャッシュアウトの発生ではない

貸借対照表の概要

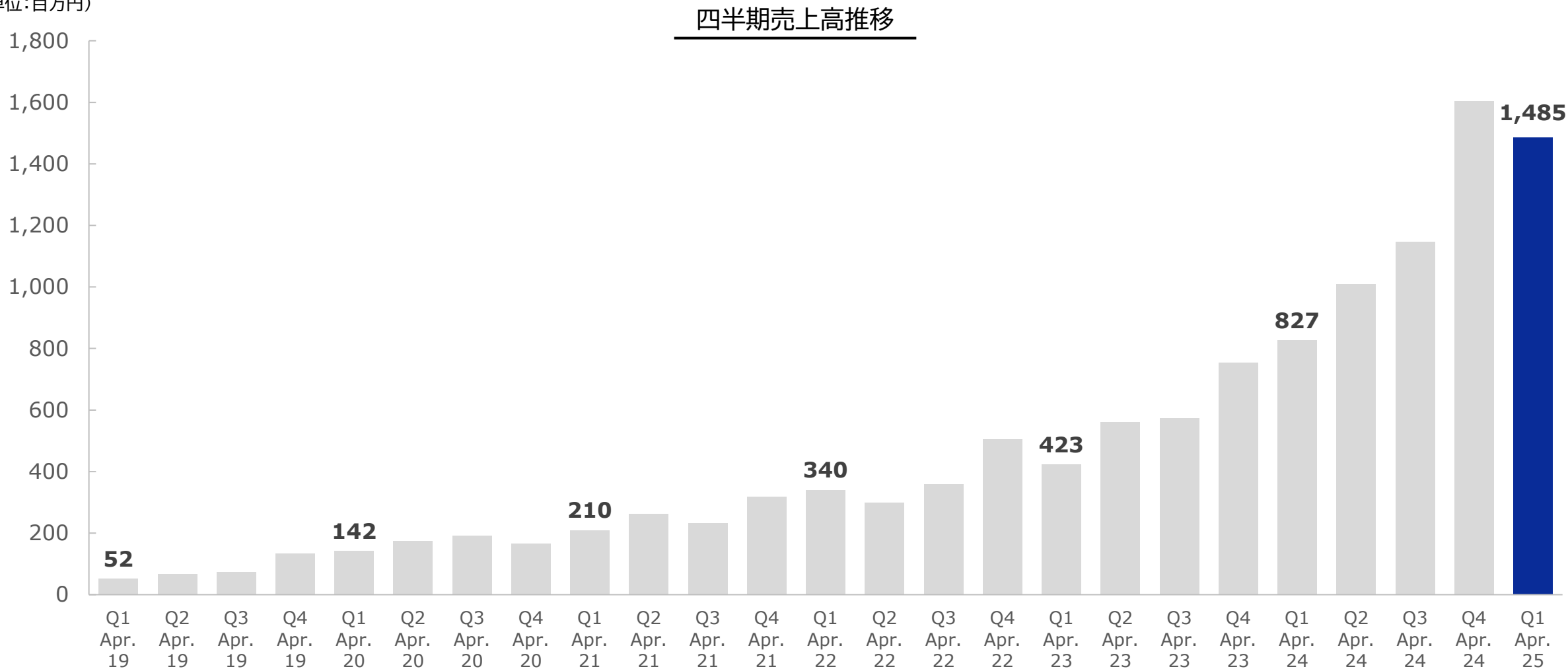
売上増に伴い売掛金が増加。転換社債の一部償還により潜在株式数は減少。純資産は約9億円の増加。

(単位:百万円)	2025/4月期 Q1	2024/4月期 Q1	増減
流動資産	6,220	5,834	+386
現金及び預金	1,567	1,370	+197
売掛金	1,283	767	+516
たな卸資産	3,026	2,995	+31
その他	344	702	△358
固定資産	94	112	△18
資産合計	6,314	5,947	+367
流動負債	1,273	1,116	+157
借入金	300	300	0
その他	973	816	+157
固定負債(転換社債等)	3,983	4,673	△690
負債合計	5,257	5,790	△533
純資産	1,057	156	+901
負債・純資産合計	6,314	5,947	+367

四半期売上実績推移

Q1単独の売上は過去最高を記録。

(単位:百万円)



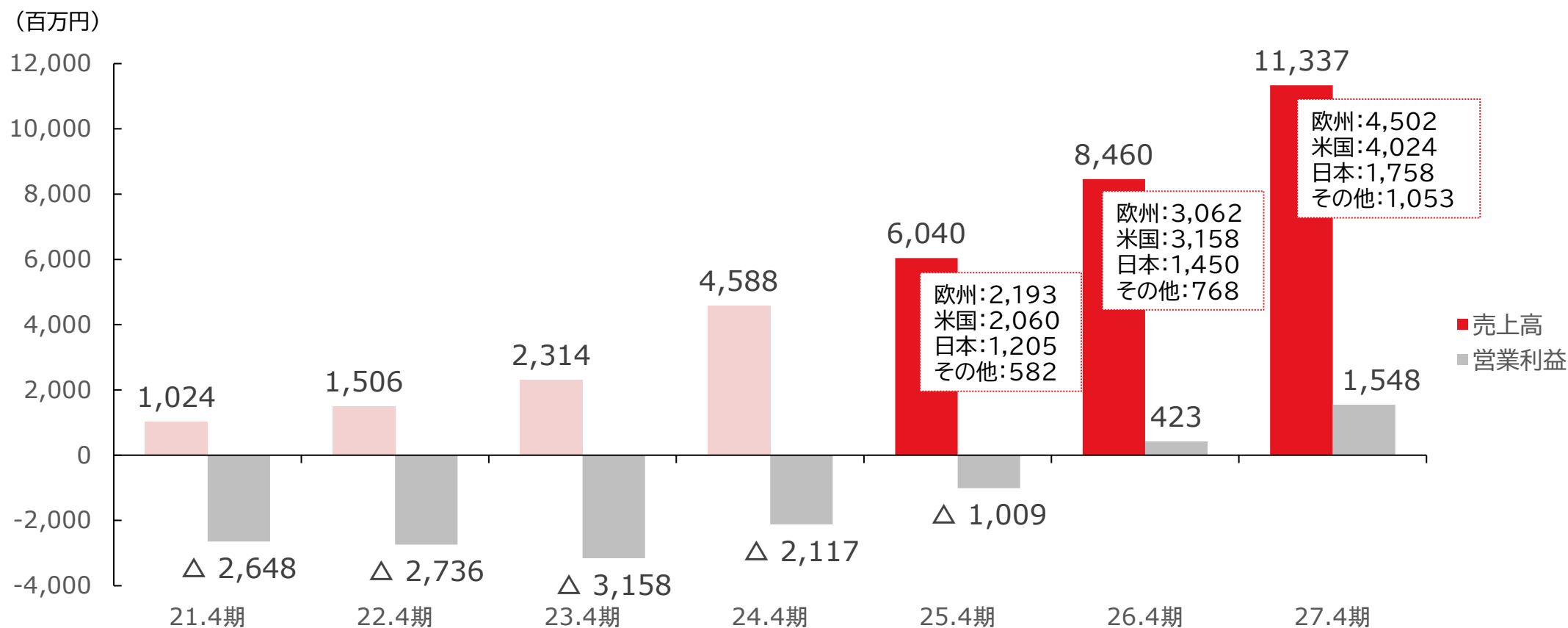
3-D Matrix, Ltd

This information is confidential and was prepared by 3-D Matrix, solely for the use of our partners; it is not to be relied on by any 3rd party without 3-D Matrix's prior written consent.

年度実績推移と3か年の計画と目標

消化器内視鏡(GI)領域に集中することで売上計画の確度を高め、営業利益を每期改善させていくことで、来期の黒字化を狙う。

売上高と営業利益の実績推移と計画



エリア別の現状と2025年4月期の計画



販売活動の進捗：米国

消化器内視鏡領域(GI)が想定を上回るペースで成長、計画を大幅に上回る成果。

売上高実績

当Q1売上高	621百万円
前Q1売上高	236百万円
増減	+ 384百万円
増減率	162%増
当Q1計画達成率	143%

消化器内視鏡領域(GI)

新規顧客獲得に加え、既存顧客の使用量拡大も順調に推移し、貢献利益を大幅に拡大。販売活動強化のために営業人員を拡大する施策も功を奏し、コストの増加分以上に売上の成長が進捗し、貢献利益も拡大。

耳鼻咽喉科領域(ENT)

未だ売上の規模は小さいものの、米国を代表するアカウントが顧客となっており、人員数も少ないことから貢献利益は黒字を維持。

販売活動の進捗：ヨーロッパ

施策が奏功したイギリスを中心にGI市場で販売が進捗し、前Q1比43%で成長。

売上高実績	
当Q1売上高	453百万円
前Q1売上高	315百万円
増減	+138百万円
増減率	43%増
当Q1計画達成率	94%

消化器内視鏡領域(GI)

代理店の在庫圧縮の動きにより一時的に売上は計画を未達。英国で成功した既存施設の深耕策がドイツで実現できるかどうか今後の課題。

心臓血管外科領域

主要大病院に注力する方針により、欧州最大規模の病院も順次開拓したものの、営業人員獲得が進まず計画未達。

耳鼻咽喉科領域(ENT)

KOLネットワークを駆使した営業が効果を発揮しているが、稼働人員の一時的不足のため計画は未達。

販売活動の進捗：日本

継続して高い成長率を維持しており、貢献利益の黒字化拡大を達成。

売上高実績

当Q1売上高	274百万円
前Q1売上高	172百万円
増減	+101百万円
増減率	58%増
当Q1計画達成率	110%

- 販売活動が計画以上に進捗し、貢献利益の拡大を継続して達成。営業一人当たりの貢献利益額は全エリアのうち最も大きい。
- 新規顧客獲得に加え、既存顧客の製品使用量を増やす施策に引き続き注力することで、貢献利益の更なる拡大を図る。

販売活動の進捗：オーストラリア

売上高および販売数量は前Q1を上回る実績。

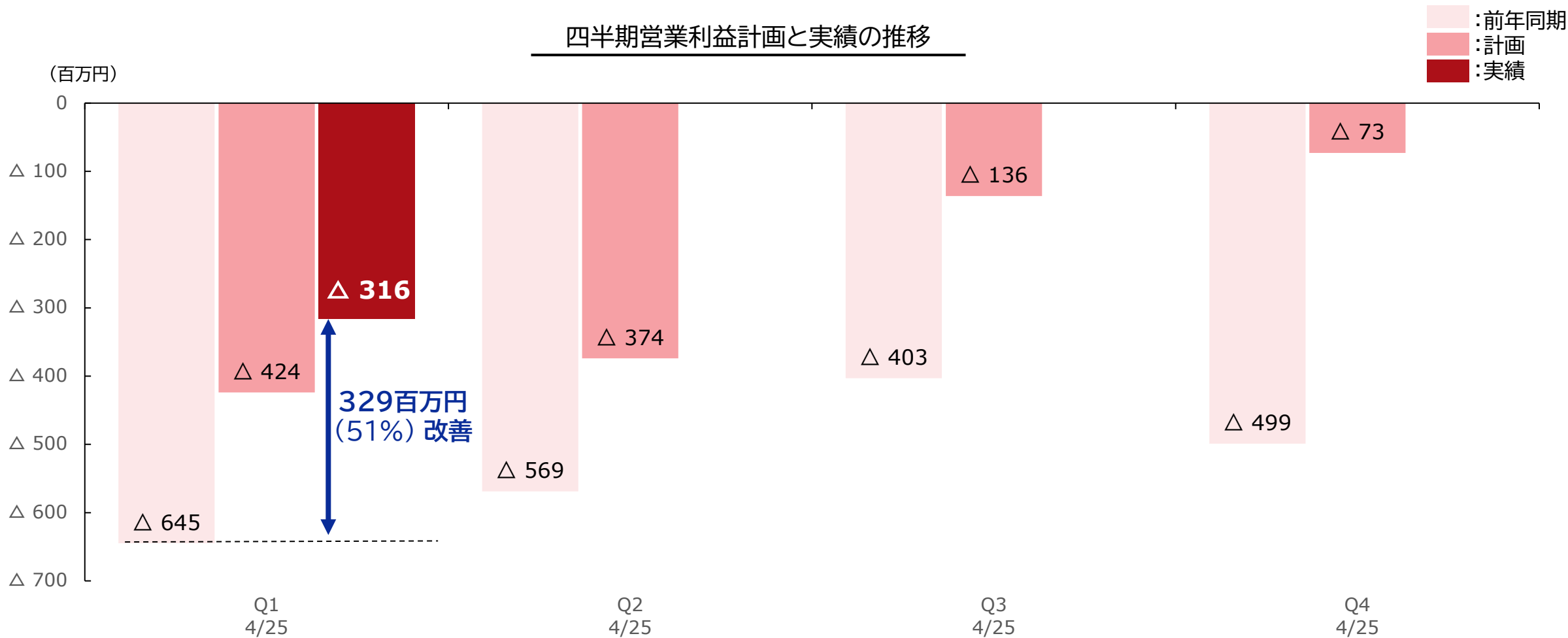
売上高実績

当Q1売上高	127百万円
前Q1売上高	96百万円
増減	+31百万円
増減率	32%増
当Q1計画達成率	103%

- 政府による民間保険価格の見直しが2024年7月に終結。
- 価格が未確定だったことによる買い控えが発生していたが、徐々に通常購買へシフト。
- 既存顧客を中心とした営業活動により、過去最高の販売本数を達成し、前Q1を上回る製品販売額を確保。

四半期営業利益

売上の増加に伴って、営業利益は▲3.1億円、前年同期比で3.3億円(51%)の改善、対計画で1.1億円の改善。



2025年4月期第1四半期の業績： 目次

1. 財務状況

2. 開発状況

3. ご参考：会社紹介

主要パイプラインの開発状況(2024年9月現在)

複数の地域に分散し、開発リスク、市場リスクを最小化。日米欧それぞれに上市製品を有し、大きな成長ポテンシャルを獲得。

領域	製品	欧州	米国	日本
外科領域	止血材(PuraStat)	上市済み	上市済み	上市済み
	Primary Bleeding	適応拡大準備中	上市済み	上市済み
	後出血予防	上市済み	上市済み	
	次世代止血材 (脳→全身)	販売承認申請済み	開発戦略検討中	開発戦略検討中
	粘膜隆起材 (PuraLift)			製造準備中
組織再生領域	癒着防止材:鼻 (PuraGel)		上市済み	
	癒着防止材:産婦人科	ヒトPOC試験準備中		ヒトPOC試験準備中
	創傷治癒材 (PuraDerm)		テストマーケティング中	
	直腸粘膜炎症治癒材	臨床試験準備中	上市済み	
	炎症性腸疾患	ヒトPOC試験準備中	ヒトPOC試験準備中	ヒトPOC試験実施中
DDS領域	siRNA核酸医薬			治験計画策定中
	悪性胸膜中皮腫			共同開発先にて臨床試験開始
	ワクチン		共同研究開始	共同研究開始

表:開発パイプライン

- :承認済み
- :開発中
- :25年4月期の動き

北海道大学との共同研究

北海道大学ワクチン研究開発拠点との国産ワクチン開発を目的とした共同研究を開始。

北海道大学は国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)が国産ワクチン早期実用化を目的として設置した国策プロジェクト内における研究開発拠点の1つ(※1)であり、世界トップレベルの研究開発力を有する。

<当社マテリアルに期待されること>

- 各種ワクチンによる防御免疫反応を高め、副作用を伴う強力なアジュバント(※2)の反応性を排除することで、効率的かつ安全なワクチンデリバリーシステムを提供する。
- 同じレベルの免疫を獲得するために必要なワクチンの接種回数を減らすことができ、患者の負担を軽減することができる可能性がある。
- 「自己組織化ペプチド」は吸収性局所止血材(ピュアスタット)として日米欧において薬事承認を取得し、その豊富な臨床使用実績より、国産ワクチンへの早期の応用が期待される。

※1国内に4つあるシナジー拠点の1つ

※2アジュバント:主剤の効果向上並びに補助を目的として併用される物質

エグゼクティブサマリー

- ◆ 売上は14.8億円、前年同期比で80%増、予算達成率115%
特に米国消化器内視鏡領域が全体の成長をけん引
- ◆ 売上の増加に伴って、営業利益は▲3.1億円、前年同期比で3.3億円(51%)の改善、
対予算で1.1億円の改善

前年同期比、予算対比 (単位:百万円)

	前第1四半期実績	当第1四半期予算	当第1四半期実績
売上	827	1,286	1,485
粗利	553	883	1,055
営業損失	▲645	▲424	▲316

- ◆ 北海道大学ワクチン研究開発拠点との国産ワクチン開発を目的とした共同研究を開始

2025年4月期第1四半期の業績： 目次

1. 財務状況

2. 開発状況

3. ご参考：会社紹介

MIT発ベンチャー企業

コア技術である「自己組織化ペプチド技術」は、マサチューセッツ工科大学(MIT)の研究者により、1990年代に発明された。当社の前身となる3-D Matrix(米国法人)はMITとMITの研究者が2001年に創業。

■会社名

株式会社スリー・ディー・マトリックス

■設立

2004年5月

■上場取引所

東証グロース市場(証券コード:7777)

■事業内容

自己組織化ペプチドをプラットフォームとしたグローバルな医療機器の開発、製造、販売

■代表取締役社長

岡田 淳

■事業所

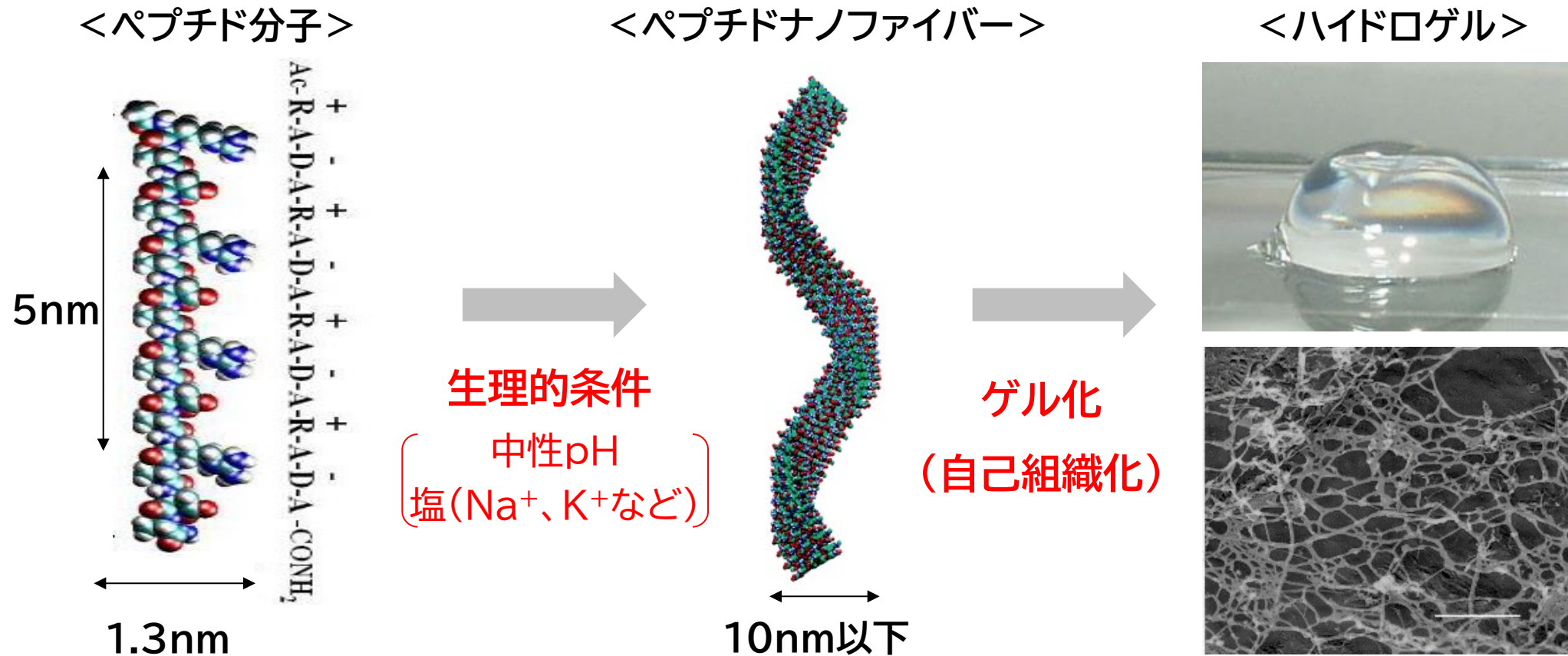
日本・アメリカ・イギリス・フランス・オランダ・オーストラリア・シンガポール・中国・香港



- Shuguang Zhang (*Head, Molecular Architecture Group, MIT*)
- Alexander Rich (*Professor, Biophysics, MIT and Harvard Medical School*)
- Robert S. Langer (*Professor, Chemical Engineering, MIT*)
- etc.

コア技術「自己組織化ペプチド」

生理的条件下(人体内など)に置くことで、瞬時に**ナノファイバーを形成しゲル化する**ペプチド。
その三次元構造は天然の**細胞外マトリックス(ECM、コラーゲンなど)**と酷似しており、多数のヒトの細胞の増殖を支える**「足場素材」としての機能**を持つ。シンプルな素材で複雑な機能を持たせることができる**ユニークな技術**。



「自己組織化ペプチド」の技術優位性

自己組織化ペプチドは、人工製品と生物由来製品の良さをあわせ持つ医療用途に適したバイオマテリアル。

項目		人工製品	自己組織化ペプチド	生物由来製品
安全性 (感染リスク)	狂牛病などのウイルスを含まない。	○	○	×
生体適合性	人体になじみ、炎症などを起こさない。	×	○	○
生分解性	いずれ分解され、体外に排出され、体内に残らない。	×	○	○
拡張性	用途に応じて、様々なバリエーションが作れる。	○	○	×
品質の安定性	同じ品質で、大量に作れる。ばらつきによる不具合が起きない。	○	○	×
例		ポリマー、セラミック、アパタイトなど		フィブリン、コラーゲン、ヒアルロン酸など

3-D Matrix, Ltd

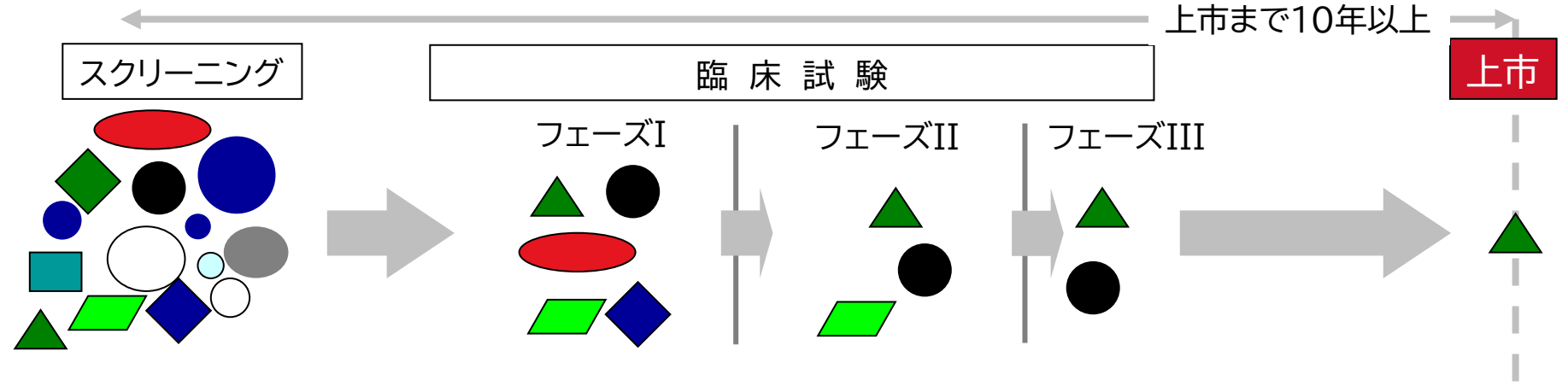
This information is confidential and was prepared by 3-D Matrix, solely for the use of our partners; it is not to be relied on by any 3rd party without 3-D Matrix's prior written consent.

自社開発製品のため、収益を可能な限り確保するモデル

医薬品の開発: 臨床試験も長く、上市まで時間・コストがかかる。1つ1つ物質が違うため応用が効かない。

一般モデル

- ・ ライセンスアウトが必須
- ・ 収益の大部分が外部に流出

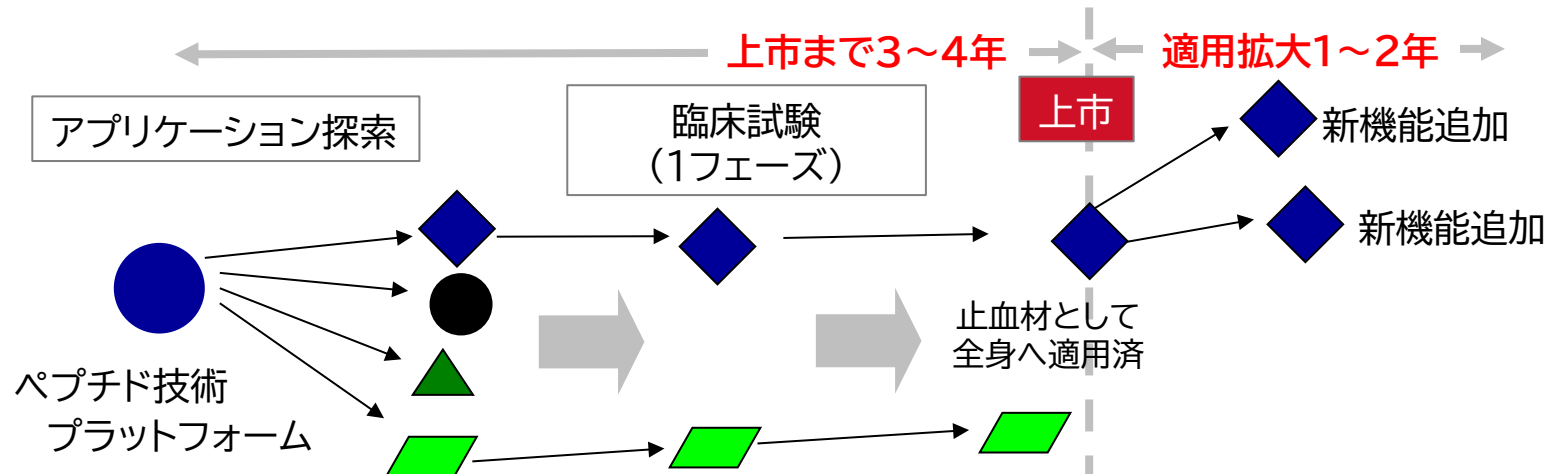


医療機器としての開発: 上市までの開発コストが小さく、さらに適用拡大によりニーズの高い用途を継続追加。



当社モデル

- ・ 自社で上市まで可能
- ・ 既に全身で使われているため適用拡大が容易
- ・ 収益のアップサイドが全て当社に残る



製品のグローバル展開

すでに日、米、欧の三極で上市製品を有し、開発リスクは小さい。
先行地域の成功事例をほか地域に適用し、市場リスクを最小化。



■欧州およびCEマーク適用国

- ・止血材: 上市済み
- ・後出血予防材: 上市済み

■日本

- ・止血材: 上市済み
- ・粘膜隆起材: 上市済み

■米国

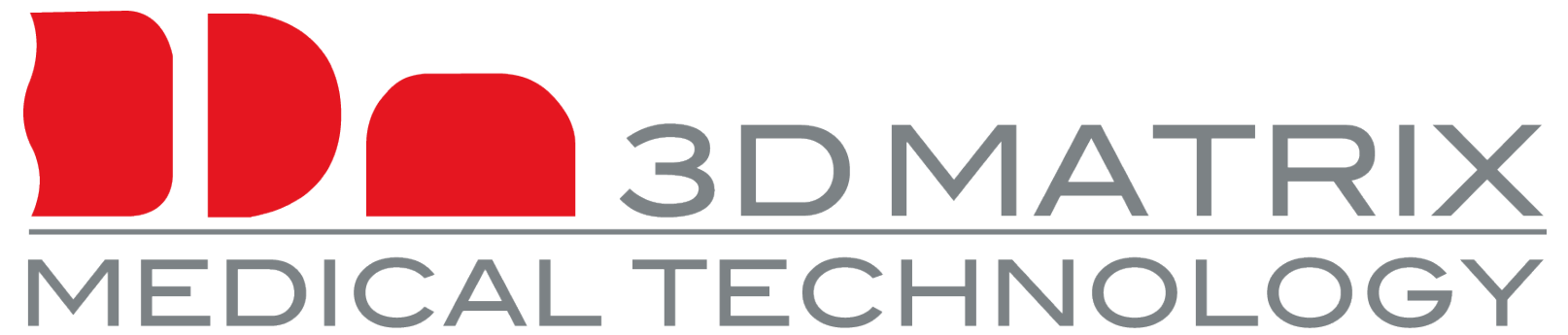
- ・癒着防止材(鼻): 上市済み
- ・止血材: 上市済み
- ・後出血予防材: 上市済み
- ・創傷治癒材: 上市済み

本資料の取り扱いについて

本資料は、株式会社スリー・ディー・マトリックス(以下、当社という)をご理解いただくために作成されたものであり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。

本資料は当社の事業及び業界動向についての当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。これらの将来の展望に関する表明は様々なリスクや不確かさが内在しております。既に知られたもしくは今だに知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は将来の展望に対する表明及び予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、更に悪いことも有り得ます。

本資料における将来の展望に関する表明は、本資料の作成時点において当社が入手し得る情報を踏まえたものであり、法令または取引所規則により開示義務を負う場合を除き、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。



ご清聴ありがとうございました